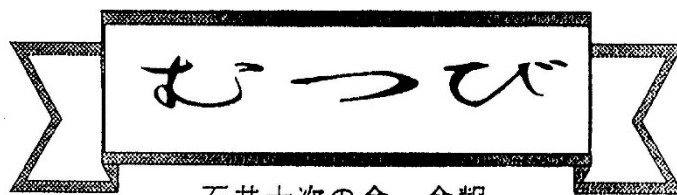


2022年
(令和4年)
4月12日



295号

「相信相愛の精神」

西都市立茶臼原小学校校長 植野 義也

令和3年4月1日、西都市茶臼原小学校に赴任してきました。私は、日向市美々津町の出身で、美々津は元々児湯郡に属していました。そのため、小さい頃から都農町や高鍋町など身近に感じていました。だからと言う訳ではありませんが、子どもの頃から「石井十次」先生の名前だけは知っていました。また、私の両親はクリスチャンで、特に父からは「石井十次」先生のことを何度か聞かされたような記憶があります。しかし、まだ小学生の頃でしたのでどのような偉業をされていたのかまでは知りませんでした。

そんな私が、校長として「茶臼原小学校」に赴任することが決まったとき、父は大変喜び、父が知る限りの「石井十次」先生の話をしていました。ただ、私自身はあまり興味も無く、「茶臼原小学校はどんな学校なのだろう？」という学校に対する関心だけでした。

4月1日、いよいよ令和3年度がスタートしました。玄関にある石井十次先生の写真、憲法（教え）。その憲法の中にこんな言葉がありました。

「天は父なり 人は同胞なれば 互に相信じ 相愛す可き事」

私は、この言葉に衝撃を受けました。小さい頃、父から、そして教会の牧師さんから聞かされていたような言葉だったからです。「この言葉のある環境で学習している茶臼原小学校の子ども達は、いったいどんな子ども達なのだろう？」、私は子ども達が登校してくる日が待ち遠しくてたまりませんでした。4月6日、ついに子ども達と対面する日が来ました。「どんな子ども達なのか？」、その答えは、すぐに分かりました。人なつっこい子ども達。来

た人を心から受け入れてくれる子ども達。いや、子どもだけではありません。保護者の方々や地域の方々も、他者を受け入れる寛容な人たちばかりでした。

私が「茶臼原小学校」に赴任したのは必然だったのかもしれませんが、私は、教師として、父親として、いや、人間として「強さ」が大切だと思ってきました。茶臼原小学校で、子ども達とふれ合い、保護者の方々ともに汗を流していく日々の中で、あるとき涙が止まらなくなりました。私が今まで出会ってきた子ども達、そして我が子に対してどのように接してきたのだろうか。そこには「力」があったのではないか？そう考えると、私が茶臼原小学校へ赴任してきたのは、私自身を振り返るためにも必然だったのでは、そう感じたのです。「相信相愛」の精神が、子ども達や保護者の方々、地域の方々、そして天心館の先生方、茶臼原の地に脈々と受け継がれているのです。

茶臼原小学校で学んだ子ども達、天心館で生活をしている子ども達、みんなが大人になったとき、「相信相愛」の精神が、さらに広がっていくのだと思います。いろいろなことを受け入れていくのは大変難しい時代です。しかし、この地で育つ子ども達は必ず「相信相愛」の精神を次世代に繋げていくことができると信じています。

「茶臼原小学校」だけではありません。12月に「友愛園」のクリスマス発表会に招待されました。そこで過ごす子ども達の柔らかな笑顔、幼児から高校生まで本当に兄弟のようにふれ合っていました。そして、何より彼らの持つ「夢」、どれもが素晴らしいものでした。

私は、正直「石井十次」先生の教えを詳しくは知りません。しかし、茶臼原小学校の子ども達や保護者の方々、天心館の職員の方々や友愛園の子ども達の姿を通して、「石井十次」先生の教えが少しは分かったような気がします。先人から学ぶということは、そういうことなんだと思います。

「茶臼原小学校」に赴任してから、火曜日・木曜日の昼休みには子ども達と「タグラグビー」をしています。あと、どれくらい子ども達と活動できるか分かりませんが、「相信相愛」の精神と「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」のラグビー精神で頑張っていこうと思います。

育まれた茶臼原台地に目を向ける

みなこホーム 指導員 杉田 松男

「2度と宮崎には帰らない。」そんな気持ちで34年前に友愛園を卒園した私が、6年前宮崎に帰郷し、石井記念有隣園(都城市)で調理師として働きはじめる。そして縁あって、みなこホーム(延岡市)に昨年5月から勤めている。今回むつびを書くにあたり、友愛園を卒園した先代の人たちの暮らしを知りたいと思い、友愛園で働いている弟に相談してみたところ、ご両親が茶臼原孤児院で育った方を知っているとのことでお会いすることとなった。K様である。

お父様が滋賀県、お母様が岡山出身で石井十次先生に引き取られ岡山孤児院から茶臼原孤児院に来られたようである。「私の祖先は石井先生って聞いていたから。」と何も違和感もなく育ち、お父様は石井先生の「満腹主義」を、お母様はクリスチャンで「何かあったら祈りなさい」の言葉で育ったとのこと。その話ぶりから、ご両親を尊敬されていることが凄く伝わってきた。ご両親が茶臼原孤児院を出るとき、牛・馬を貰い開墾し農業で生計を立てていたと聞き、私は改めて茶臼原台地に目を向ける。茶臼原の通り慣れた道を改めて歩いてみた。開拓者の想いが溢れてくるようで感慨深い気持ちになった。

K様は旧天心館で働かれていた経験もある。友愛園の子どもたちを気にして下さったり、私が勤務するみなこホームの大学生にも心を配って下さったりで、急なお願いではあったが快く迎え入れてくださったK様には感謝の気持ちで一杯である。

さて、冒頭で「2度と宮崎に帰らない。」と書いたが、卒園し地方で暮らすことになった私は1ヶ月で施設生活の有難みを知ることとなる。当時、私の暮らした場所は差別や貧困の酷い土地で、今のこの時代でもこんなことがあるのか・・・と心が痛くなることもあった。友愛園では、特に衣・食・住の食は贅沢させてもらっていたことに気付き、私の中での施設育ちであるという劣等感はなくなり感謝の気持ちが芽生えたものである。内向的であった私はあまり社会に馴染めなかったが、支えとなったのは近くにいた友愛園卒園生や弟である。昔は理事長も遠方まで足を運んでくださることもあり、久しぶりにお会いした時は涙が出そうになったことを今でも忘れることができない。

現在、みなこホームでは6名の子どもと寝食を共にしている。悩みや不安を抱えながらも自立していこうとする姿を見守っているが、私が昔できなかった「大人に頼る」ということを子どもたちには伝えていきたい。そのために、悩みや不安をため込ませない話しやすい環境づくりに努めている。また、「自分で考える力」「失敗を恐れない」「困った時は頼る」を身につけ自立してもらいたい。子どもたちの声に耳を傾けることから始め、少しずつ自分で考えさせることに重きを置き子どもたちと接する日々である。

★新規会員のご紹介(敬称略)

【都城市】中丸 文雄

【宮崎市】三輪 郁央

【西都市】橋口 智俊

★ご寄付をいただきました(敬称略)

(一般)

【埼玉県】白木原 康則

(奨学金基金へ)

【福岡県】田中 賢二

★2/21～3/20の資料館来館者

団体・グループ 0人

個人 20人

計20人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により、3月20日までのものとしています。

★5月号の通信発送作業

5月10日(火)9時から印刷・製本

11日(水)9時から印刷・製本

★石井十次の会の総会について

コロナ禍の状況を鑑み、令和4年度も総会の中止を決定しました。

★鯉のぼり掲揚について

今年も友愛社の前の水田上に約150匹の鯉のぼりを掲揚する予定です。

期間 4月16日(土)から5月14日(土)

ご家庭等で不要になった鯉のぼりはありませんか。掲揚用に寄付を募っております。十次の会までお知らせください。

この会報は、宮崎県を中心に全国

1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社

☎ 884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1

後援会「石井十次の会」

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

●「朝倉文夫記念館」見学報告～(その2)

「朝倉文夫記念館」の周辺一帯は、やすらぎと芸術の里「愛の園生 朝倉文夫記念公園」となっています。つつじや梅林も植樹された美しい公園の中には「やすらぎ茶屋(ギャラリーやすらぎ)」があり、地元の人々の作品を発表する場になっています。

公園の中段には「文化ホール」があり、年間色々な企画展が開催されています。

私が訪れた日は「第57回県美展巡回展」が開催中でした。



入賞彫刻作品

広い公園内では、アジアの新進彫刻家の入賞作品が展示されていました。彫刻作品と自然の色や空間が美しく調和しています。

猫を数多く制作した文夫に因み、開園30周年記念事業として、巨大な木彫りの猫のモニュメントが制作されました。文夫の母校の東京芸術大学の深井教授や関係者を招聘し、地元の木材を使い、記念公園が地域の人々に愛されることを願って設置されました。

愛称は公募で(福猫ふくにゃん、あいにゃん、あさにゃん)と決定されました。

私は、あの有名な東京日本橋の欄干の麒麟と獅子のブロンズ像の作者である「渡辺長男」が「朝倉文夫」の兄であることを、数年前に初めて知りとても驚きました。(文夫は11人兄弟で、弟の「大塚辰夫」も彫刻家。記念館には「大塚辰夫」作の「兄の面影」ブロンズ像も展示されていました。)

今回、私は共に日本の彫刻界で活躍した兄弟の故郷を訪れて、新たな気付きと深い感動を得ることができました。

これからの石井十次資料館のボランティアガイド活動に、少しでも生かすことができれば幸いです。(完)

*編集後記

むつび巻頭は、茶臼原小学校長 植野義也様より玉稿をいただきました。ありがとうございました。

*文責 徳地順子

